

## 日本の文化や 社会現象取材に訪れた ブラジルの人気作家 マルセロ・カルネイロ・ダ・ クーニャ・モレラ氏

Mr. Marcelo Carneiro da Cunha Moreira



マルセロ・カルネイロ・ダ・クーニャ・モレラ ●1957年、ブラジル生まれ。これまでに14の作品を発表。1995年のベストノベル賞をはじめ、数多くのブラジル国内の賞を受賞。2001年に映画化された『白人』は多くの映画祭に出品されるなど、映画作家としても活躍中。現在は映画制作が最も楽しくてしょうがないと語る

撮影：高木あつ子

ブラジルで人気の作家マルセロ氏が  
ジャパンファウンデーションの招  
いで初めてのアジア・日本を訪れ  
た。一定の期間、外国に留まり、その国の風  
俗・習慣など、さまざまな観点から取材研究  
を行ない、それらをもとに小説を書くのが氏  
のスタイル。構想、取材には多くの時間を費  
やすという。今回の来日も、日本の滞在を通  
して得たものを今後の作品創作に生かすこと  
が目的だ。

人気作家としての顔のほかに、企業の共同

経営者としての顔がある。コマースル作成  
やデザインを手掛ける企業で、今後の事業計  
画や予算について語る氏の表情は企業人その  
ものだ。異なる2つの顔を持つ理由を尋ねて  
みた。

「多くのブラジル人作家とは異なり、劇的な  
もの、現実には起こらないことを描くのでは  
なく、誰の身にも起こり得る日常を描く作家  
でいたい。企業人として社会と関わるのが、  
作家としての生きざらわからぬ多くの  
ことを私に与え、さまざまな人々の日常に  
触れることができる」

ブラジルでは、劇的でない、日常を題材に  
する作家は少数派だそうだ。

日本滞在中、視覚障害者用の点字ブロック  
で立ち止まり、信号機から流れる音に耳を傾  
けた。建物の入り口にある鍵つき傘立てを写  
真に収めたかと思えば、地下鉄の整列乗車を  
不思議そうに眺めていた。販売員のお辞儀の  
回数を数え、ゲームセンターで太鼓を熱心に  
叩く少年に近づいた。東京を観光する日本人  
団体と写真を撮り、お店では自ら小銭で支払  
いをし、日々、東京の風景に溶け込んでいった。  
帰国の際、「世界中で唯一無二の国、融合  
の国、そして大好きな国」と評した日本で見  
たさまざまな風景が、どのような形で作品に  
表現されるのか、心から楽しみにしている。

（加藤雅元）